

平成29年九州北部豪雨における NPO等の活動状況

第一回「防災ボランティア活動の環境整備に関する検討会」

NPO／JVOADの主な動き

- 発災後から、多くのNPOが現地入りし、避難所のニーズ調査と物資などの提供などを実施
- 7月6日 JVOAD現地入り
- 7月7日 福岡県（社会活動推進課）、全社協、支援P、JVOADによる打合わせ ※情報共有会議の実施が決定
- 7月9日 九州北部豪雨支援者情報共有会議（内閣府、福岡県、NPO等）（7月12日より毎日、8月からは週4回）
- 7月9日 朝倉市（ふるさと課）、福岡県、JVOADとの打合せ ※市のシーズ表の共有とマッチングの開始
- 7月10日 朝倉市社協、朝倉市（ふるさと課）、福岡県、JVOADとの打合せ
- 7月11日 朝倉市（ふるさと課）、NPOで避難所に関する情報共有会議 ※市より避難所運営サポートの協力依頼
- 7月13日 内閣府と避難所を視察
- 7月14日 朝倉市（介護サービス課）とNPOで福祉避難スペースの設置
- 7月15日 朝倉市（ふるさと課）、NPOで、避難所に関する会議 ※NPOによる避難所4か所の運営サポートが決定
- 7月18日 朝倉市（介護サービス課）と地域包括との会議に参加 ※避難所の個別ケース共有、在宅調査検討
- 7月18日 朝倉市（総務財政課）、NPOと在宅避難者調査について打合わせ ※NPOによる在宅調査実施を決定
- 7月19日 大分・福岡合同の情報共有会議
- 8月11日 日田市NPO情報共有集会
- 8月17日 朝倉市社協、朝倉市（ふるさと課）、NPO等による打合せ ※作業系支援の連携体制の検討
- 8月21・22日 豪雨災害 みんなで応援！ミーティング
- 8月22日 福岡県（農林水産部）、朝倉市（ふるさと課）、JVOADによる打合せ ※農業支援の検討

避難所の状況と課題（7月15日）①

（食事）

- 炊き出しは市が窓口となり調整しているが、運営の問題もあり避難所の状況の変化を把握できていない。電話が殺到。
- 食事の内容に偏りが見られ、違うものを食べたいとの声もでている。

（寝床等の住環境）

- 多くの人は、まだ床に薄いマットや毛布を敷いて寝ている状況。エアコンが本日設置されたため、空調がない施設は無くなった。

（トイレ・衛生）

- 杷木は水道が使えないため、課題が多い。水は給水ポイントまで来られない人が心配。トイレは洋式のものが無いため対応が必要。

（要配慮者、子ども、女性）

- 一般の指定避難所で、要配慮者が一般の方と同様な環境におかれ、対応が行われていないケースも。
- 避難所での物資配布など女性への配慮が必要と思われるケースも見られる。子どものストレスケア、遊び場の確保なども必要

（在宅避難）

- 在宅避難者の多いと見込まれ、状況が気になるが、市ではまだ把握しきれていない。

（運営）

- 市の職員は1日2交代で、毎日違う人が来る状況。意思決定ができないために生じる課題が多い
- 地域がバラバラになってしまった避難所があるため、住民同士が話しづらい状況も出てきている。
- 避難所からどのような要望を出していいのかがわかっていないケースも。
- 物資についても、どういうものが必要になってくるか、避難所にメニューを提示するなどの工夫が必要
- あるボランティア（個人）に仕切られてしまっている避難所もある。ボランティアや支援団体への不安視する声もある
- 避難所の集約も行われているが、地域を離れたくない等、少人数の避難所も残っている。
- サンライズ杷木、らくゆう館は、長期化する可能性が高い

行政への主な問い合わせ内容

- 避難所
 - 支援体制、支援内容
 - 炊き出しなどの支援の調整窓口
 - 集約、閉所の見通し
- 在宅
 - 把握状況、把握方法
- 作業系
 - ニーズの把握方法
 - 回収方法
 - 障害物撤去、公費解体、農地への補償などの制度と運用方法
- 仮設住宅
 - ハード面（規格、使用方法、備え付けの設備など）
 - 家電などの支援
 - 見守りの支援の見通し
- その他
 - インフラの復旧状況、見込み

平成29年7月九州北部豪雨への対応について

No.	カテゴリー	JVOADの把握内容	JVOADの対応状況		
			朝倉	東峰	日田
1	避難所	避難所ごとの状況の把握 支援団体ごとの状況の把握 避難所情報共有会議の内容確認 マッチング状況	情報収集 ・支援団体 ・行政（文化生涯学習課、ふるさと課、介護サービス課、健康課） ⇒4団体が運営サポート	行政対応中心	行政対応中心
2	作業	地域（コミュニティ）ごとの状況の把握 支援団体の活動の把握 VCの活動の把握 農地などへの対応 マッチング状況	情報収集 ・支援団体 ・行政（ふるさと課） ・災害VC ⇒16団体が土砂の撤去など	情報収集 ・支援団体 ・災害VC ⇒6団体が土砂の撤去など	情報収集 ・支援団体 ・災害VC ⇒4団体が土砂の撤去など
3	在宅	コミュニティごとの状況の把握 在宅調査の進捗状況の把握 マッチング状況	情報収集 ・支援団体 ・行政（ふるさと課、人事秘書課、介護サービス課、福祉事務所） ⇒1団体が調査を実施開始 ⇒コミュニティ会議に参加	要検討	要検討 ⇒自治会との会議に参加
4	仮設住宅（みなし含む）	建設予定 支援予定、支援体制の確認	情報収集 ・行政（福岡県） ・行政（ふるさと課、防災交通課） ⇒物資支援の調整	情報収集 ⇒物資支援の調整	行政対応中心

朝倉市NPO等災害支援団体活動図

(他活動団体70以上)

**情報共有
会議**
事務局
・Angel Wings
・JVOAD

調査着手
寒水・古賀
浜川・久喜宮
山田・八坂
立野・菱野

在宅全戸調査

- ・ YNF
- ・ くらしづくりネットワーク北芝

在宅

避難所

杷木中

- ・ ピースウィンズジャパン (運営)
- ・ 九州キリスト災害支援センター (看護)
- ・ チーム神戸 (看護)
- ・ 災害NGO結 (ボランティア)
- ・ プロジェクト九州 (子ども)

朝倉生涯学習センター／
らくゆう館

- ・ プロジェクト九州 (運営)
- ・ プランジャパン (運営)

サンライズ杷木

- ・ 難民を助ける会 (運営)

仮設

- ・ ピースウィンズジャパン (みなしへの物資)
- ・ ピースポート災害ボランティアセンター (みなし・集会場への物資)

その他

- ・ 災害母子支援センターきずな
- ・ すくすく朝倉未来隊

農ボラ

- ・ ユナイテッドアース (大庭、須川、比良松)
- ・ がんばりるよ星野村 (朝倉)

作業
重機

作業系団体 (杷木重機調整)

- ・ 災害NGO結
- ・ 関東風組
- ・ DRT-Japan
- ・ Open Japan (松末)
- ・ 友救の会
- ・ 支援の「わ」
- ・ 縁の下もぐら

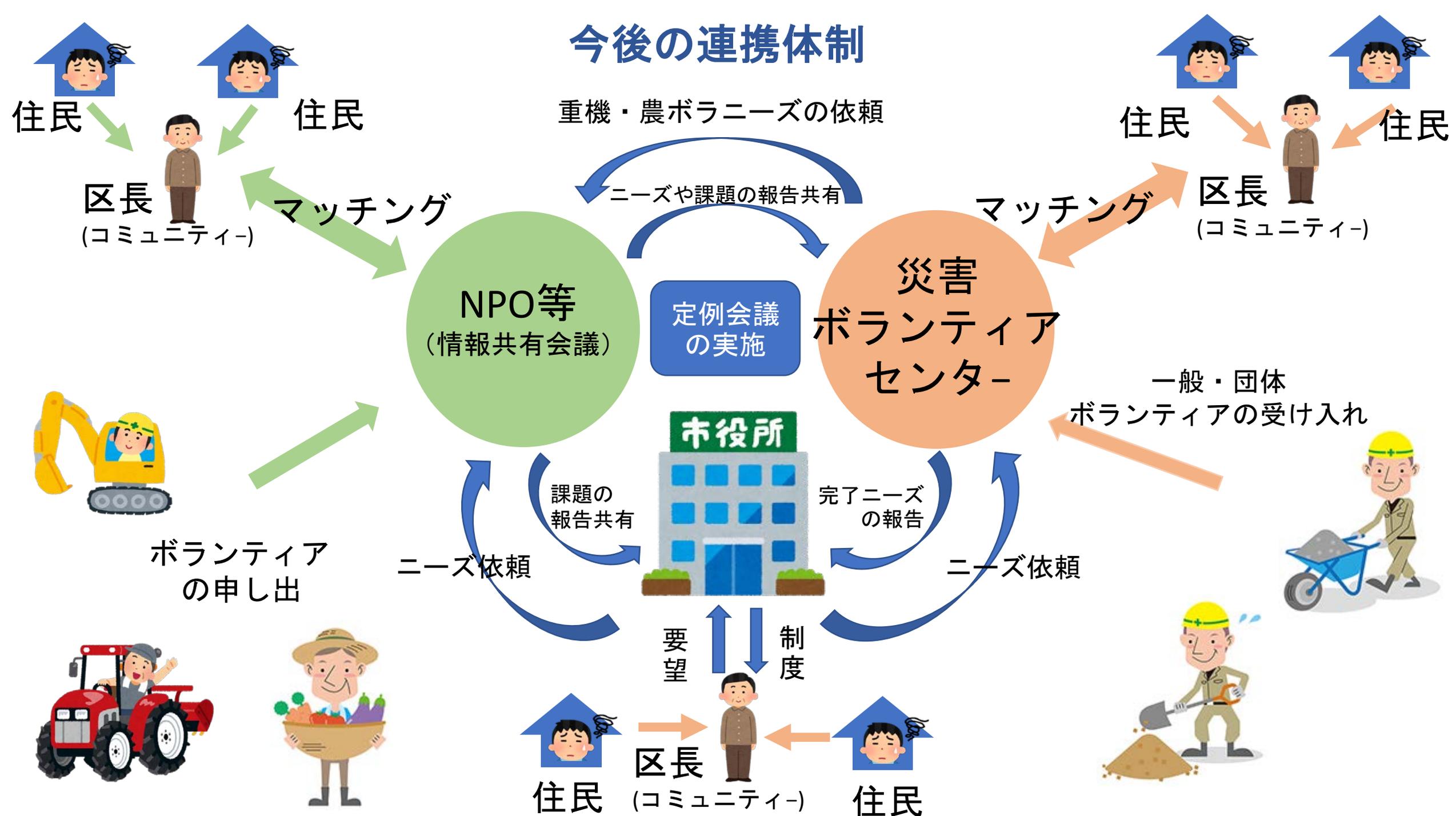
作業系団体

- ・ 末日聖徒イエス・キリスト協会 (災害VC)
- ・ 日本九援隊 (災害VC)
- ・ チーム絆 (災害VC)

作業系団体

- ・ 九州キリスト災害支援センター (浜川)
- ・ オペレーションブレスリングジャパン (浜川)
- ・ 災害復興支援協会つながり (浜川)
- ・ 天理教災害救援ひのきしん隊 (寒水)

今後の連携体制



今後の課題

《避難所》

住民の次の住まい・生活が確保され、避難所が集約・閉所されていく道筋をどうつけていか（避難所の住民で取り残される人が出ないように、対策を検討する）

《作業系》

膨大な土砂・流木などへどう対応していくか（マンパワー、重機などの投入と回収の仕組みを効率的に組み立てられるか）

《農地》

補償制度などとの兼ね合いも含め、農地の回復、離農を食い止める策を立てられるか（作業系同様に、マンパワー、重機などの投入など）

《在宅》

調査から見えてきた課題を、支援にどうやってつなげられるか。（情報共有と、課題解決に向けた官民連携の体制を作れるか）特に仮設に入らない世帯で、家屋の修復が困難な世帯への対応をどうするか。

《仮設住宅（みなし仮設）》

引っ越し支援、入居後の仮設の不具合の状況確認と解消、新たなコミュニティづくり、見守り体制の構築などの支援体制の構築をどうするか。（「仮の住まい」から恒久的な住まいに移るまで、取り残される人を出さないようにするための体制づくり）